

人権を語り学ぶ

「こども塾」活発

県内2教諭呼び掛け

中学生らが人権について語りながら学ぶ「人権こども塾」が活発に活動している。「みんなが語り合う人権学習」を掲げる「T-over」人権教育研究所を2021年に設立した八万中教諭吉成正士さん(58)と松茂中教諭森口健司さん(64)が中学生らに呼び掛けて開いており、性的少数者や狭山事件、在日コリアンなど触れる機会が少ないテーマを扱う。参加している中高生は、学校ではできない学びから多くのことを感じ取っている。

2年目の本年度は、2年「義務教育を受けられながら続けて参加している人も含めた石川さんは警察と検察めて20人余りの中高生が参り裁判所の違いすら分から加。月1、2回のペースでなかつた」と述べた。

本年度9回目の9月18日「悔しいだろう」「警察は本には、石川一雄さん(埼玉)来、国民を守っていくもの(狭山市)が無実を訴えて、なのに」と口々に感想を述べた。シャニーズ事務所のがテーマ。講師を務めた研究性加害問題と絡めて「ひと究所のアドバイザー中山敏くりに警察が悪いという見さんが、被差別部落を対の、シャニーズ事務所を対象にした見込み捜査で石川、関わる全てのタレントを否さんが逮捕された」と説明し、定していくことに重なるの



狭山事件について語り合う人権こども塾の参加者。右端は森口教諭=9月18日、徳島市応神町の市立応神公会館

学校外の活動 中高生ら刺激

ではと、違う角度からの意見もあつた。

10回目の10月7日は松山市の四国朝鮮初中級学校の生徒とオンラインで交流した。八万中2年の奥村明日香さんは「給食で郷土料理は出ますか」と質問した。「[トランプ]との答えに「辛いですか」と再び質問する」と、「コチュジャンが置いてあつて好みの辛さに見える」と返ってきた。朝鮮学校の生徒から「生徒数は何人ですか」と質問が寄せらる。松茂中3年の有井

考え方発表とトークイベント

来月5日、徳島市

「こども塾文化祭」

T-over人権教育研究所と人権こども塾は11月5日、初の公開型行事「みんなが語り合う人権こども塾文化祭」を徳島市の県立21世紀館イベントホールで開催。こども塾に参加している中高生が人権について語るほか、ハンセン病や原発をテーマにしたトークイベントもある。

第一部は「人権こども塾『自分語り』学習発表会」。2年目を迎えた人権こども塾に参加している中高生が、こども塾で学んだことや人権についての自らの考え方について壇上で語る。

第二部では、ハンセン病患者を対象にした懲罰用の「特別病室」を再現・展示している重監房資料館(群馬県津町)の黒尾和久部長、放射線衛生学が専門で東日本大震災後は福島県でモニタリング検査を続けている木村真三・獨協医科大学大准教授、研究所の共同代表を務める森口健司松茂中教諭の3人が「ハンセン病×原発×じんげん」をテーマに意見を交わす。第三部では会場全体で人権について語り合う。

研究所の共同代表の吉成正士八を語る『学習発表会』。2年目を迎えた人権こども塾に参加している中高生が、こども塾で学んだことや人権についての自らの考え方について壇上で語る。

温人さんらが生徒数を答えようとしている」と言う。在日外国人を取り巻く問題についての富田真由美さん(県退職女性教職員の含)の話も聴いた。

22日には四国朝鮮初中級学校の交流フェスタに参加した。八万中2年の奥村明日香さんは「給食で郷土料理は出ますか」と質問した。「[トランプ]との答えに「辛いですか」と再び質問する」と、「コチュジャンが置いてあつて好みの辛さに見える」と返ってきた。朝鮮学校の生徒から「生徒数は何人ですか」と質問が寄せらる。松茂中3年の有井

高輪夫婦が重傷
新猪ノ鼻トンネル

27日正午ごろ、三好市池田町西山の国道32号・新猪ノ鼻トンネル(4187m)内で、大阪府東大阪市の会社員尾野成成さん(28)運転の乗用車と、香川県善通寺市の無職入江廣文さん(74)運転の軽乗用車が正面衝突した。入江さんと助手席の妻隆子さん(71)は病院に運ばれ、入江さんは横隔膜損傷などで1カ月程度、隆子さんは肋骨を折るなどして2カ月程度の重傷を負った。尾野さんの車は、入江さんの後続を走っていた同県三木町の会社員細川裕一朗さん(40)の乗用車ともぶつかり、尾野さんと細川

阿南・牟岐線踏切5カ所遮断機上がらず
落雷で最大3時間

27日午後4時50分ごろ、阿南市内のJR牟岐線・桑野駅から阿波福井駅間にある5カ所の踏切で、遮断機が下りたまま元に戻らず、警報器も止まらなくなつた。JR四国によると、落雷による機器の故障が原因で、午後7時50分過ぎに全て復旧するまで最大約3時間、車や人が通行できなかった。

阿南署によると、通行が

狭山事件 再審求め120人

石川さん、ビデオで支援要請

徳島市で集会

弾・狭山事件 県内集会



寄せた石川一雄さん=徳島市昭和町

を話し合つて、悲しみや苦しみを共有する。自死遺族の支援を続ける田中さんらに、相続や債務問題などについて相談できる場所とする。県精神保健福祉センターと予算や事業の打ち切りな

1983年10月に埼玉県「い」と訴えた。